

追悼



故 堂野達也 会員 (期前)
2009年12月13日逝去・105歳
1968年度 東京弁護士会 会長
1974年度 日本弁護士連合会 会長

わが師匠 堂野達也先生を偲んで

会員 阿部 三郎 (6期)

2009(平成21)年12月13日午前11時58分、堂野達也先生が逝去された。

享年105歳2ヶ月の、ご長寿を全うされている。

堂野先生にはじめてお目にかかったのは、1953(昭和28)年12月中旬頃と記憶する。当時司法修習6期生として後期に入っており、年が明け、3月修習終了後は弁護士登録を予定していた。しかし登録する弁護士会を実務修習をした仙台とするか、それとも東京とするかについて決定しかねていたことから、同郷の先輩である東京弁護士会の佐藤利雄先生に、ご相談申し上げたのであった。その時の佐藤先生のご意見は「登録は東京弁護士会と決めたらどうか、事務所は私のところでも良いが、現在日弁連の事務総長(2代目。1950～1954年まで、4年間勤務される)の役をつとめているので、この役が終わるまで友人の堂野達也事務所を紹介しよう」とのことで、早速、堂野法律事務所にお伺いしたのがはじめてのことであった。

このようにして1954(昭和29)年4月東京弁護士会に弁護士登録、堂野法律事務所勤務弁護士として出発することとなったのである。以来今日まで56年間先生より学んだ弁護士道、そして弁護士会活動等のことについて、堂野門下の第1号の「イソ弁」としてごく近い立場でそのすべてを承知することができたこと。そして私もその驥尾に付して師の教えとして私なりの道を歩むことができたことは、私の生涯の幸ともいふべきこと

であろう。

堂野先生は1968(昭和43)年度東京弁護士会会長、1974(昭和49)年度日本弁護士連合会会長に就任されている。特に日弁連会長としての会務執行に当たって特記すべきことは、事務総長として期成会の松井康浩先生に前年度に引き続いてその就任を要請し、東京弁護士会期成会が有する新しい会務エネルギーを、日弁連会務の発展展開のための活力として生かそうとされたことだ。

時恰も前年度より法制審議会よりの改正刑法草案が答申され、堂野会長としては、日弁連内に刑法改正阻止実行委員会を設置し、国民と共に刑法改正を阻止すること。この問題こそが最重要課題と認識されたからである。現にこの年度の日弁連の会史に当たるならば刑法全面改正阻止活動について積極的に取り組まれたことが認められるところで、そこに堂野・松井ラインの息の合った成果がみて取れるのである。

大局を見ることの大切さ、このことは何時の場合においても必要不可欠なことだ。私もその師匠の背中を見ながら、東弁会長、日弁連会長、中央大学理事長と夫々の道を承継させていただいてきたところである。その後のことについても、さらにもっと学ぶべきことがあったはずだがもう師匠にはこの世ではお目にかかれぬ。本当にお世話になりましたと心からなる御礼の念をこめながらご冥福をお祈り申上げたい。

合掌